

平成14年度 第2次試験 【事例】

与件を活用した解答例

第1問(配点30点)

(a)	売上高対人件費比率	(b)	11.9%
(c)	問題点は、X社より従業員数が少ないが人件費が大きく、収益を圧迫している点である。		
(d)	解決策は、曜日や時間帯の売上に応じた人員配置を行い、人材費の削減を図ることである。		
(a)	商品回転率	(b)	3.83回
(c)	問題点は、ほとんどの種類の書籍を扱い、商品在庫が大きく、資産効率が悪い点である。		
(d)	解決策は、客層の違いに応じた商品構成へと見直し、在庫の適正化を図ることである。		
(a)	固定資産回転率	(b)	5.91回
(c)	問題点は、保有している自社ビルが有効活用されておらず、資産効率が悪いことである。		
(d)	解決策は、店舗面積の拡大や倉庫を新事業に活用するなど、売上の拡大を図ることである。		

第2問(配点20点)

(設問1)

(a) 項目	(b) 金額(単位:百万円)
税引き前当期利益	8
減価償却費	13
特別損益	23
営業外収支	1
売上債権の減少額	3
棚卸資産の増加額	-170
その他流動資産の減少額	2
仕入債務の増加額	148
小計	28
営業外損益	-23
特別損益	-1
法人税等の支払額	-2
(c) 営業キャッシュフロー	2

(設問2)

営業キャッシュフローは、在庫の大幅な増加を仕入債務の増加等で賄っており、わずかにプラスの状態である。
--

第3問(配点15点)

(設問1)

仕入れ時点でレートを確定させる為替予約の方法をアドバイスする。

(設問2)

現地通貨のコールオプションを購入する。
円安の時はオプションを行使し行使価格で決済する。円高の時はオプションを放棄し当日のレートで決済する。

第4問(配点20点)

(設問1)

期待値で評価すると、中古本販売事業の期待値が最も高く、今後有望と判断できる。
--

(設問2)

リスクも考慮した事業評価を行うと、中古本販売事業の標準偏差が最も高く、中古本販売はハイリスクハイリターンな事業となる。

第5問(配点15点)

(設問1)

方策は、売上情報をもとに曜日・時間帯別の売れ筋商品分析を行い、客層に応じた品揃えへと活かすことで、販売の促進に役立てる。
--

(設問2)

方策は、売上情報と仕入情報を連動させ在庫管理や卸売業者への自動発注へと活かすことで、仕入発注業務の改善に役立てる。
